

教育センターだより

令和6年度 第3号

黒部市教育センター

アップデートしましょう



黒部市教育センター

特別支援教育コーディネーター 林 真奈美

毎日使うスマホやパソコンのOSやアプリは、常に最新のバージョンが使えるようにアップデートをしています。最新の状態にすることでセキュリティが強化されたり、パフォーマンスが向上したりして一段と快適になります。

では、私達自身のアップデート具合はいかがでしょう？

目に見えるものだけではなく、人の認識、世の中の価値観も時間と共に変化しています。アップデートは、古いものは何でもダメと否定することではありません。重要な基盤はそのまま大切にしながら、新しい見方、捉え方、関わり方を知ること、腑に落ちないことに納得できたり、上手くできなかったことが解決したり、人間関係が改善したりします。

例えば目の前の子供たち。大人から見て「困った子」の行動を改善しようとして日々奮闘中の先生方があの学校にもこの学校にもいらっしゃいます。でも、大人が自分のやり方を変えないと、現状は何も変わりません。「私のやり方はこうだから」「学校はこういうものだから」という自分目線を変えてみませんか。埒があかないときは、今までのやり方は捨てましょう。今まで通りではなく、昨日と違う一手を打つと、絶対に違う展開になるはず。困った子が、実は「困っている子」だったことにも気付くはず。

ここで忘れてならないのは、人間の基盤、土台となる部分です。新しい方法論、グッズやIC機器を有効に使っても、子供は「ものから学ぶ」のではなく「人から学ぶ」のです。どんなに正論を突きつけても、「イヤな奴」「嫌いな奴」の言うことには耳を傾けませんよね。たとえ不器用な接し方でも、目の前の子供の姿をそのまま丸ごと受け止めて向き合えば、「あなたのことを真剣に考えている」姿勢は伝わり信頼関係ができます。

今は「多様性の時代」と盛んに唱えられていますが、自分の認識はアップデートできていますか。要は人間は一人一人違っているのが当たり前で、それを認めて尊重しようということ。「自分以外はリスペクト」が基本です。だって、自分が直接やっていないことは、自分以外の誰かがやってくれているのですから。「一人一人は違って当たり前」と認識すると、目の前の子供の行動も、ちょっぴり余裕をもって見つめられるかもしれません。

...とは言っても、カーッと腹がたつ時ってありますよね。

そこで最後に、カッとなった怒りを静めるお手軽方法を。

その1：黙って6まで数える <6秒ルール> 怒りの波は6秒でひく！

その2：深呼吸を3回する

その3：両肩に力を入れて引き上げ首をすぼめて15秒キープ

→ 一気に力を抜いてストーンと両肩を落とす <筋弛緩法>

その4：冷たい水を飲む

その5：百会（ひゃくえ）ツボを押す

*ちなみに子供が怒っているときには、握り拳を開いて手のひらを合わせたり、おなかや肩に優しく手を当てたりすると、緊張がほぐれて呼吸も大きくできるようになり落ち着きます。

《教育センター研修会での学び》

【生徒指導主事等研修会】

- 11月8日（金）東部教育事務所 生活指導主事 植野 昌弘 先生
「不登校・不登校傾向の児童生徒への組織的な対応及び保護者との信頼関係づくり」

- ・質問や相談、不満や苦情は、初期対応が適切であれば共通理解・連携強化になり、初期対応が不適切または誤解されかねない対応であると、無理難題・過剰な要求へとつながっていく。
- ・どのように組織で関わるか役割を調整し、誰が何をするかを理解し、お互いに進捗状況を確認することで、よりよい対応を見付けていく、という流れを大切にする。「ホウレンソウ（報告・連絡・相談）は、チョウリ（調整・理解）してカクニン（確認）」

〈参加者より〉

- ・保護者に子供のことを伝える際に、担任一人がよいところを見つけて頑張るのではなく、チームとしてその子のよさや変化を見つけていくことの大切さに気付くことができました。
- ・個々のケースは異なるので、その都度対応を協議していく必要がある（ケース会議）と感じました。



データあります！

「SOS の見つけ方・受け止め方の事例集」

学校間共有→教育センター→12 生徒指導主事研修会資料→「事例集」フォルダ

【第5回学級経営研修会（初任者研修会）】

- 1月10日（金）「5年後の自分からのメッセージ」

- ・5年後のベストな自分を想像し、「どこでどんな暮らしをしているか、仕事や休日の過ごし方はどんなふうか、そんな暮らしをするためにどんなことを頑張っておけばいいか」を自分へのメッセージとして書きました。参加者で読み合い、応援メッセージもやりとりしました。

〈参加者より〉

- ・心になんともなく思っていたことを5年後の自分から今の自分に宛てて、文章にして書いたことで、未来に進んでいくことがとても楽しみになりました。そのためには、今やるべきことに一生懸命に取り組み、真摯に子供達と向き合っていきたいと思いました。
- ・本日の研修で心に残ったことは、5年後のメッセージに対する同期の皆さんの言葉です。以前、初任者研修で授業を見ていただいた方から、優しい言葉をかけていただき、教員としてこれから生きていく励みになりました。初任者のみなさんと一緒に、これからも頑張っていきたいです。
- ・4月の自分より、少しずつ出来ることが増えてきました。そしてその出来ることになったことや、まだまだ難しいことを全5回の研修会で仲間たちと共有し、とても有意義な時間になったと思います。同じ年に同じ市で働けたご縁を大切にして、これからも交流を続けていきたいと思いました。



データあります！

「5年後の自分からのメッセージ」

学校間共有→教育センター→30 おたすけ箱→「5年後の自分からのメッセージ」フォルダ

【情報教育研究委員会】

○2月10日(月)

- ・eライブラリのさらなる活用に向けて、株式会社ライ
ンズの尾美さんによる使い方事例の紹介
- ・黒部市情報チェックシートの生かし方や活用例につ
いて情報共有



〈参加者より〉

- ・便利なソフトやICTを活用していくには、どんどん触ってみること、それが気軽にできる環境整備が欠かせないと思います。また、デジタルとアナログを臨機応変に効果的に両方使い分けていくことが大切だと思います。
- ・ICTの活用をしようという意識が高まっています。今後も、研修を各学校で行っていく必要があり、また、各学校の実践を共有する機会を設けていくといいと思います。

データあります!

「黒部市版 情報チェックシート」

学校間共有→教育センター→17 情報教育研究委員会→「情報チェックシート」フォルダ

【生徒指導主事等研修会 兼 いじめ問題等研修会】

○2月12日(水) 東部教育事務所 主任生活指導主事 尾島 賢治 先生

- ・いじめに関する児童生徒や保護者への対応、校内体制づくりの大切さなどについて「【改訂版】黒部市いじめ見逃し0宣言」を使ってお話しくださいました。

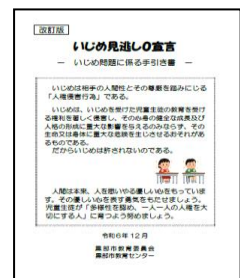


〈参加者より〉

- ・生徒指導情報交換会を継続し、その中で小さな気づきを教員間で出し合い話し合っていくことが大切だと思います。また、SOSの出し方を子供と考え、「ちょっと困っている」ときにもすぐに発信できるように子供を育てたいです。
- ・ベテラン教員が当たり前に行っている生徒指導対応のワザを若手教員に伝える機会を設けたいです。
- ・ネットルールを子供が作ることは可能だと思いますが、家庭によって状況が様々なので、保護者のネットリテラシーを高めることも必要だと感じます。
- ・メラビアンの法則を意識して、児童、保護者、教職員とのコミュニケーションに努めていきたいです。

「メラビアンの法則」とは・・・調べてみましょう!

※「【改訂版】黒部市いじめ見逃し0宣言」は各学校に3冊ずつ配布してあります。いざというときの対応時のほか、校内研修等でも活用してください。



データあります!

学校間共有→教育センター→03 いじめ見逃し0→「宣言データ」フォルダ

今年度も、研修会に多くの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。
次年度も、先生方のお力になれるような研修会を実施していきます。

令和6年度令和のとやま型教育推進事業 成果と課題〔ダイジェスト〕

各校の詳しい取組の概要は、「富山県教員応援サイト 令和のとやま型教育推進事業」で見ることができます。

【黒部市立中央小学校】

1 研究課題

主体的に考えたり協働的に議論したりするなど、自己調整しながら確かな学力を身に付ける子供の育成

2 取組の概要

(1) 具体的な取組

・子供の確かな学力定着に向けた教師の授業改善について、講師に富山大学大学院教職実践開発研究科の増田美奈准教授を迎え、1年間の研究を行った。

①自分の授業の実態把握

・富山大学教職大学院の増田美奈准教授をお招きし、中央小学校の全教員の授業参観を行い、その後指導講話をいただいた。指導講話では、全学級の授業の様子について、助言をいただいた。

②部会研修会の充実

・11月の公開研修会に向けた授業研究を、低、中、高学年部会に分かれて行った。どの部会も指導案の立案段階から部会研修会を行い、部会全体で授業改善を行った。

③公開授業

<低学年部会>



1年2組音楽科 山本 真綾 教諭

<中学年部会>



4年1組道徳科 藤谷 真麻 教諭

<高学年部会>



6年2組社会科 石田 凌一 教諭

(2) 成果

・「子供たちが主語になる授業」を目指し、部会研修会において授業内容や発問、教師の問い返し等の改善に取り組むことで、授業内容が吟味されていき、子供が主体的に学習に取り組むことにつながった。

・吟味された学習課題によって、子供たちが学習に主体的に取り組むことができ、子供同士の話し合いが協働的になされ、学びがより深まることにつながった。

(3) 課題

・協働的な議論の場面を1時間の授業のどのタイミングで取り入れるか、吟味が必要である。子供たちが「話したい」と感じている場面を適切に教師が見取ることで意義のある話し合い活動につながると考える。

3 今後に向けて

・問題解決学習の中で、自己調整力をいかに付けていくか教師の授業構想が重要である。子供たちの確かな学力の定着に向けて、これからも授業改善や教材研究に取り組んでいきたい。

【黒部市立清明中学校】

1 研究課題

主体的に学び、自己調整しながら学習を深めることができる生徒の育成

2 取組の概要

生徒の学習状況を確認する活動を設定したり、協働的な学習の場を工夫したりすることで、生徒の問題意識を高め、自己調整しながら粘り強く学ぶことのできる生徒の育成を目指し、以下の取組を行った。

(1) 具体的な取組

問題発見・解決型の学習過程を重視した指導と中間評価の工夫

研究を進めるにあたり、資料を基に生徒に付けたい自己調整力とその手立て、それによる生徒の変容等について共通理解を図った。また、教科部会で生徒が自己調整を行いながら学習を進めることができる単元構想や具体的な場面、振り返りについて検討し、授業実践を行った。

- ① 生徒が自分事として捉えることができる学習課題の設定と意欲付け
- ② ねらいに向けて自己調整しながら学ぶための学習（学習形態、振り返り等）の工夫
- ③ 学習状況を確認する活動（中間評価）と主体的に学習に取り組む態度の評価の工夫

(2) 成果

- ① 問題発見・解決能力の育成のために、生徒自ら「分かるようになりたい」と思えるような授業展開の構想が大切である。特に導入において、実物を準備して見せたり、身近なものに触れさせたりすることで、問題意識を高めることができる。
学習過程を明確に示すことで生徒が意欲的に取り組む様子がみられた。目標に向かう課題を自分で選択し、取り組むことが自主的な活動にもつながったのではないかと考える。
- ② 学習形態を「個→グループ→個」としたことは、問題解決に効果的であった。他者との対話の中で自己調整を行いながら、学びを深めていった。また、中間評価を繰り返し行うことが、生徒の自己調整につながった。学習の振り返りを行う際は、振り返りの視点を具体的に示すことが必要である。適切な視点で振り返りを行うことが、次時の学習意欲につながる。
- ③ 自分の動作を動画で撮影して確認する中間評価は、客観的に自分の達成状況を確認するための手段として有効であり、自分の課題を明らかにして活動に取り組むことができた。

(3) 課題

- ① 学習課題の設定と提示の仕方に課題が残る。生徒自身に課題を設定させる場合は、単元の中で付けるべき力から離れないように調整をしていく必要がある。また、意欲付けに効果があるかどうかを判断するための適切な評価の方法は何かを検討していきたい。
- ② 「情報を収集・選択させ、考えをもたせる工夫」「一人一人の問題解決に向けた生きる対話の工夫」「自己の学習活動を振り返らせたり、身に付けたことを自覚させたりする場の工夫」の3点に注目し、ICTの積極的な活用と生徒同士の対話を行いながら、自身の変容を自覚させ、より深い学びにつなげるためにはどうしたらよいかについて研究していきたい。
- ③ 中間評価と主体的に学習に取り組む態度の評価の工夫について課題が残った。生徒が主体的に活動したことをどのように評価するかは、今後検討を重ねていきたい。また、事前に評価規準を明確にするとともに、生徒の学習の達成目標として示す工夫を試みたい。

3 今後に向けて

- ・生徒が自分事として捉えることのできる学習課題の設定について、さらに研修する必要がある。そのために、互見授業の機会を増やすことで、アドバイスし合いながら自己調整力を育てる授業について考えていきたい。
- ・自身の学習状況を把握し、自分にとっての学習方略や学習形態を選択することができるような中間評価について研修を深める。中間評価のタイミングや適切な形態（紙媒体、ICT）を検討していきたい。

内地留学研修を終えて

黒部市立中央小学校
養護教諭 島 美枝

内地留学研修の3か月間は、富山大学学術研究部人文科学系 講師 飯島 有哉先生をはじめ、研究者の方々が積み上げてこられた心理学や教育、医療に関する研究成果や理論、様々な分野の新たな知識を学ばせていただき、児童生徒の心理や抱えている困難の具体をとらえ直す大変貴重な時間となりました。

1 研修の概要

① 学校で活用できる認知行動療法

認知行動療法では、児童生徒が見せる一見「適応的な行動」も「不適応的な行動」も、「その環境下」において「学習された行動」としてとらえます。

不適応的な行動をとる児童生徒に出会ったとき、行動の改善を促す前に、「認知の歪み(考え方のクセ)」という視点で状況をとらえ直してみると、適応的な行動を促す適切な言葉かけが可能となります。

私たち大人は、行動を修正しようとするのではなく、感情や行動の問題の根底には、その児童生徒独特の認知があるかもしれないことを理解し、支援することが大切です。

考え方のクセの例(尾形, 2013)

- ・1回の悪い出来事でも「いつもうまくいかない」と他の出来事にもあてはめる。
- ・客観的には小さな失敗であっても、取り消しのつかないような大きな失敗と考える。
- ・自分の経験のネガティブな側面にのみ注目し、ポジティブな面をみない。
- ・「友達が私の誘いを断ったのは、私のことが嫌いだからにちがいない」と悪い方向に根拠なく思い込む。
- ・「この先、何もうまくいくわけがない」といったように物事の結果を破滅的に考える。
- ・「～すべき」と考えて自分を苦しめる
- ・よくないことが起きると、なんでも自分のせいだと考える。

KJ法によるほめの構成要素の分類(飯島他, 2018)

【カテゴリ】	〈下位カテゴリ〉	コード	記述例
【方法】	〈手段〉	〈言語〉	口頭(音韻刺激) 口頭でほめる
		書字(文字刺激) 学級通信や連絡帳などに書いてほめる	
	〈非言語〉	ジェスチャー 手でOKサインを作る	
		スキンシップ 肩をたたく、頭をなでる	
		表情 笑顔で視線を合わせる	
		プレゼント シールや手作りのプレゼントをわたす	
	〈模態〉	〈表現〉	具体的 「発表の声が大きくてわかりやすかった」と具体的にほめる
		伝聞形 「〇〇先生が～とほめていた」と伝聞形を用いる	
		アイ・メッセージ 「～してくれて(私は)嬉しい」と自分を主語にする	
		事実のみ 「教室がきれい」とほめ言葉を用いず事実のみを表現する	
〈内容〉		評価(△) 「えらい」など相手への評価を伝える	
【対象】	〈範囲〉	個人 特定の個人をほめる	
		集団 クラス全体をほめる	
	〈標的〉	〈行動〉	学習活動 授業中の挙手や課題への取り組みをほめる
		社会的活動 クラスメイトとの助け合いをほめる	
		〈個性〉	才能(△) 「天才だ」と才能や能力をほめる
	〈焦点〉	人柄 「一緒にいると元気になる」と人柄をほめる	
		成果 「〇点とったんだね」とテストの結果をほめる	
		過程 「頑張ってたんだね」とテストに向けた努力をほめる	
		動機 「〇点目指したんだね」と取り組みへの姿勢をほめる	
	【場面】	〈タイミング〉	成長 「〇点上がったね」と前回と比べての成長をほめる
あらかじめ 「あなたならきっとできる」と取り組み前にあらかじめ伝える			
途中で 「ここまでよくできている」と取り組んでいる途中にほめる			
すぐに 行動した後すぐにほめる			
〈他者の有無〉		あとで 帰りの会などで、時間をあけてほめる	
		個別 廊下などで1人の状況でほめる	
他者のいる前 教室などでクラスメイトの前でほめる			
【目的】		適応行動の増加 子どもが適応的な行動を学ぶため	
		適応的な自己認知の促進 子どもが自分に自信を持てるようになるため	

・表中の(△)は、研究対象となった書籍において児童生徒に対して必ずしも恩恵的でないとしていたコードを表す。

② 教師が行う“ほめ”の効果

飯島他(2020)は、教師の賞賛行動が生徒および教師双方の学校適応の促進に寄与することを示しています。教師の賞賛行動が生徒の学校生活享受感情の向上や、教師自身のワーク・エンゲイジメント(WE)の向上につながるということです。WEとは、「仕事へ積極的・主体的に取り組む状態」として定義されています。

ほめといっても、その具体的な働きかけの内容は必ずしも同一ではなく、

①何によって、どのようにほめるのか

②だれの、どのような部分をほめるのか

③いつ、どのような場面でほめるのか

④何のためにほめるのか

といったさまざまな構成要素を含んでいます。

なお、ほめの効果が発揮されるにあたっては、教師の賞賛行動が生徒に「ほめられた経験」として受け止められ、生徒の〈うれしそうな反応〉や〈適

応行動の増加〉といった反応が得られることが重要です。学級内でほめている児童生徒に偏りがあったり、賞賛行動のバリエーションが少ないと、教師の賞賛行動が必ずしも児童生徒にとってほめられた経験として機能しない可能性があり、特に、中学生においては賞賛行動が教師の意図したように生徒に受け入れられないことも多いことには留意が必要です。

2 まとめ

児童生徒のよりよい発達・発育を支援

するため、内地留学研修で得られた知見を日々の取組に活か

し、研鑽を積みしたいと思います。貴重な学びの機会をいただきましたことに心より感謝いたします。

〈引用文献・参考文献〉

- 飯島有哉・山田達人・桂川泰典(2018)・教師が行う「ほめ」の構成要素に関する文献研究 学校メンタルヘルス, 21, 181-193.
 飯島有哉・山田達人・桂川泰典(2020)・教師の主観的賞賛行動が生徒の学校生活享受感情および教師自身のワーク・エンゲイジメントに与える効果プロセス 教育心理学研究, 68, 388-400.
 尾形明子(2013)・考え方のクセについて学ぶ 学校でできる認知行動療法子どもの抑うつ予防プログラム小学校編 日本評論社 85-113.
 嶋田洋徳(2021)・実践入門!学校で活かす認知行動療法。ほんの森出版。



ほっとスペース「あゆみ」より



.....ほっとスペース「あゆみ」日記 2月6日(木).....

富山県バランスボールインストラクターの飯作愛里さん(入善町在住)を講師としてお迎えし、バランスボール教室を実施しました。児童2名、保護者2名が参加しました。ボールに座って跳ねながら準備運動をした後、音楽に合わせて大きなバランスボールを投げ上げたり、バウンドさせたり、転がしたりして、体を動かしました。脳トレの要素もあり、頭も使って活動しました。また、骨盤の正しい位置を意識して座ること、鼻で息を吸って大きく呼吸すること、笑顔で過ごすこと等の大切さについてお話ししていただきました。

〔参加した児童の感想〕

- 今日、バランスボールをしました。弾むのが楽しかったです。またやりたいです。
- 今日、バランスボールをしました。疲れました。でも、楽しかったです。

〔参加した保護者の感想〕

- 普段、使わない筋肉を使ったり、しない動きをしたりして、心も体も温まりました。気分もリフレッシュできて、楽しかったです。



今年度もほっとスペース「あゆみ」の活動にご協力いただき、ありがとうございました。次年度も、通所している児童生徒について、連携して支援していきたいと思っております。よろしくをお願いします。

【令和7年度の主な研修予定(魚津地区教育センター協議会)】

☆講演会

	学級経営に関する講演会	生徒指導に関する講演会
期日	7月29日(火)	8月7日(木)
会場	入善町うるおい館	入善町うるおい館
講師	大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子 先生	東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科 教授 杉山 雅宏 先生

☆相互参加型研修会

	朝日町小中学校教育講演会	カウンセリング講座	生徒指導研修会
期日	8月18日(月)	7月25日(金)	6月12日(木)
会場	朝日町役場大ホール	うるおい館	魚津市教育センター
講師	東京学芸大学教育学部 教授 高橋 純 先生	南魚沼市教育委員会 SSW 長田美智留先生	魚津警察署 刑事生活安全課

黒部市教育センターからのお知らせ

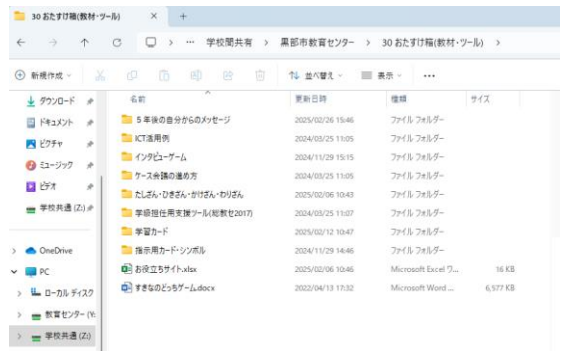
★通級はじめてセット

- ・「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」：文科省
- ・「すべての教員のための 知っておきたい 通級による指導」：富山県総合教育センター
- ・「はじめての通級 これからの通級～通級指導教室担任あるあるQ&A～」
- ・「通級指導教室 発達障害のある子への『自立活動』指導アイデア110」
- ・「通級指導教室 発達障害のある子への『自立活動』指導アイデア111 Part2」

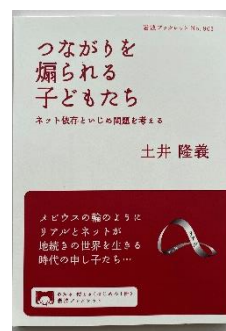


★おたすけ箱！ ☑学校間共有>☑黒部市教育センター>☑30 おたすけ箱

先生方が、^{ゼロ}から教材を手作りしなくてもよいように「使えるものはみんなで共有しよう！」ということで、フォルダ「おたすけ箱」があります。これからも、教材のデータ、手作り教材や市販の教材の紹介など、お互いに提供し合える「おたすけ箱」にしていきたいです。皆さんからの教材やツールの紹介もお待ちしております。



★新着図書！ 4月より貸し出します



★その他、他市町村を含めたいろいろな学校の指導案、各種検査、ボードゲーム等、いろいろな資料があります。お気軽にお尋ねください。